

奈良・町家の芸術祭
HANARART 2012
はならあと

まちとともに、まちへの関わり方ガイド [ハレ]

HANARART Regional report

[HA:Re]

vol. 1

HANARARTが
できるまで

五條新町

御所市名柄

郡山城下町

八木札の辻

田原本寺内町

三輪

HANARARTの
これから



はならあとの
これまでと
これから

ライフスタイルの変化や
少子高齢化の影響…
奈良県には歴史ある町家・
町並みがたくさんあるのに…
力をあわせて
なんとかならないかな

まちとともに、まちへの開わり方ガイド「ハレ」
HANARART Regional report

[HA:Re]

vol.1

- 03 HANARARTができるまで
- 05 case study 五條新町
- 07 case study 御所市名柄
- 09 case study 郡山城下町
- 11 case study 田原本寺内町
- 13 case study 八木札の辻
- 15 case study 三輪
- 17 HANARARTのこれから

まちとともに、まちへの開わり方ガイド「ハレ」
HANARART Regional report

編集長 松本珠貴
編集 小林征子、藤原日和子
前田 展広（株式会社シーズクリエイティブ CSR 室）
赤司 研介（株式会社シーズクリエイティブ CSR 室）
浦野 聡（大和・町家バンクネットワーク協議会）
デザイン 小山 豊（K-Pool Project）
写真 奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会

息づかいの届く町並み

奈良には歴史を感じることでできる日常があります。

それらは奈良を想う人々によって守られ、受け継がれてきました。

奈良の町家もまた、200年、300年と大事にされてきました。

歴史・文化を守り、人々の営みを豊かにしたい、

そんな思いをもつ人がここにはたくさんいます。

「土びと」と「風びと」の出会いが

まちをどう変えつつあるか、ご覧ください。

文=HANARART実行委員会



HANARARTができるまで

HANARARTを
やってみよう!

奈良アートプロム(NAP)2010 ※3
開催

町家の
魅力を
伝えたい

大和・町家バンク
ネットワーク協議会
設立 ※1

何かしなきゃ!

コミュニティの
希薄化

人口減少

悩み

空き家の増加

奈良に
現代アートの
衝撃が!

アイデア

2011.10
奈良・町家の芸術祭
HANARART
開催! ※5

HANARART
2012年はこうしたい!

こあ・もあ
2つの展覧会

見せ場を絞りながら、
ハレの場の創出を狙う。

公式現代アート展
HANARART こあ

地域の核となる町家等を会場にした現代アート展。
公募により選ばれたキュレーター ※7 が、アーティ
ストや地域住民とともに作り上げる、独自の展覧会。

自主企画アート展
HANARART もあ

アーティストがお気に入りの場所で、自由な発想で
開催するアート展。

企業・学校・
地域住民を
巻き込む仕掛け

学校でのワークショップ、
地元企業とアーティストによる
グッズの開発などを提案、実施。

YAMATO MACHIYA SUBLEASE PROJECT
大和・町家サブリースPROJECT

「大和・町家サブリース PROJECT」も
同時期に開催!

大和・町家サブリース PROJECT
期間限定のサブリース(又貸し)での町家活用促進
プロジェクト。町家を活かして商売や活動をしたい個
人、企業、NPO団体を対象に、2012年10月20日~11月
18日に大和郡山、八木、五條新町、三輪の4エリアで
開催。(国土交通省委託事業)

成果③ 成果② 成果①

普段見る機会の少ない現代アートを身近な場で感じることができ、
より多くの方に魅力を伝えることができた。
これからのまちへの期待感が生まれ、
まちづくりを応援してくれる人が増え始めた。
町家での作品発表は、参加アーティスト達の
新しい作品づくりのきっかけとなった。

宿題

- ① 歴史や文化と向かい合っ、サイトスペシフィックな展覧会 ※6 にしたい。
- ② まちづくり団体や地元住民の方と皆で取り組みたい。
- ③ アート展だけでなく、色々な空き町家の活用方法を探りたい。

このままいくと歴史あるまちは
どうなってしまうのだろうか...

まちの活性化を目指した

まちづくり団体が県内各所にでき始めた。

なら・まちづくりコンシェルジュ ※2 などの
ネットワークを活かして町家バンクの協議会が結成された。

県内各所にある町家・町並みの
魅力を発信する方法を模索。

なら・まちづくりコンシェルジュのメンバーが
古い町家と現代アートを組み合わせることで、
面白いことが起きるのでは!? と思いつく。

開催地域のまちづくり団体と一緒に準備が進む。

家を貸す事に抵抗があった町家のオーナー ※4 も
たくさん協力してくれた。

今まで奈良とは縁がなかったアーティストも、
大勢参加表明をしてくれた。

町家の保存
利活用

地域資源
マップの作成

※1 大和・町家バンクネットワーク協議会
空き町家情報を一元化してその情報を効
率的に発信することにより、空き町家の活
用を進め、地域活性化に寄与することを目
的とする団体。県内の歴史ある町家・町並
みを有する11の地域、活動に賛同する団体
や行政で構成。

※2 なら・まちづくりコンシェルジュ
魅力ある地域の創出を目指して、まちづく
り活動を行う団体などを継続してサポー
トする奈良県の制度。13名の職員が任命さ
れている。(平成25年3月現在)

※3 奈良アートプロム(NAP)2010
「奈良から未来と世界に向けて発信する現
代美術同時多発展」をコンセプトに民間の
有志が運営し、地元企業や50名以上のサポ
ーターの協力のもと2010年秋に開催。

※4 町家のオーナー
町家の所有者。
「仏壇があるから」知らない人が使つのは
不安「いづれ息子が帰ってくるから」と、
オーナーの貸すことに対しての事情も様
々。HANARARTでは期間や部屋数を
限定することでオーナーの負担を少なく
し、利活用のきっかけづくりを行った。

※5 奈良・町家の芸術祭 HANARART
2011年10月8日~10月30日
メイン会場...今井・八木・五條新町・三輪・
宇陀松山・郡山城下町・ならまち
サテライト会場...高取土佐・初瀬・田原本
運営に関わった人達...約1,493人
来場した人達...約42,000人
参加したアーティスト...約70組
会場...57カ所

※6 サイトスペシフィックな展覧会
なぜここなのか?なぜ今なのか?を意識
し、掘り下げた展覧会。

※7 キュレーター
一つのテーマのもと、作家や作品をコーデ
ィングし、各会場での展覧会を統括する指
揮者。



HANARART 五條新町エリア担当団体

NPO 法人大和社中

400年受け継がれてきた本物のまち五條新町の文化と伝統を継承し、あきない(飽きない/高い)で暮らせる商家町にすべく、深い期待と決意を持って活動しています。

HP: <http://www1.gojo.ne.jp/~yamato/index.html>
TEL: 0747-26-6677



下村 京さん
事務担当で皆を支えてくれました。



山本 陽一さん
創業300年の造り酒屋の社長です。



築300年の町家に住む中 純宏さん

土びと・圃びとエピソード

土びと…地域で生きる人達
圃びと…アーティストなど
外からやってくる人達

「中家に感銘を受けました！」

会場の下見にきた作家が、「作品と場の緊密な関係を作りたい」と、町家の廃材(瓦、壁、戸など)を使った展示方法を提案。所有者の中さんと一緒に廃材集めをし、会場内に展示されました。

「天誅組がね・・・」

五條市美術協会の方々が期間中会場に滞在してくださり、来場者と歴史の話で大盛り上がり！笑顔が絶えない会場となりました。

「町の模型屋さんが夢だったんです。」

小さい時から模型作りが大好きだった店主の野口さん。34歳で鉄道ジオラマ作りに取り組み始めました。子供も大人も夢中になる楽しいお店になっています。



「山直」の店主 山口 誉恭さん
このお店のうどんは絶品！
大和社中の副理事長も務めます。



手作り市
憩の家ベーカリー

HANARART Regional report
[HA:Re]
五條新町
凛としたまじり
文・写真 H.A.
協力 NPO法



五條市にある新町通りは重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、江戸時代から残る美しい町並みと、吉野川の雄大な自然が魅力。加えて、「幻の五新鉄道」と言われる橋脚があり、鉄道ファンの間ではちよつと有名な場所でもあります。かつての商家町の名残りがあり、凛とした空気が漂う新町通りには、美味しい日本食レストランやフランス料理店、笑顔が印象的な店主がもてなすうどん屋が立ち並びます。一棟貸しの宿泊施設で羽を伸ばして一泊してみるのもおすすめです。

五條新町

奈良・町家の芸術祭
HANARART 2012



「あきないのまち」にしていきたい

かつての商家町のように、「新町通りをあきない(飽きない・高い)のまちへ」をコンセプトに活動する、NPO法人大和社中が五條新町エリアを担当しました。「現代アートは町家・町並みの新たな魅力を引き出してくれる。今年は特に、ただ展示するだけでなく、キュレーターによって五條新町の品格を上げてくれたことが嬉しい」と理事長の山本陽一さんはおっしゃいます。

一緒にHANARARTしたい

京ちゃんの愛称で知られる下村京さんは五條生まれの五條育ち。親子でまちづくりに取り組まれています。「新町に滞在してもらい、まちを楽しんでもらうための工夫をしたり、キュレーターと一緒に新町のHANARARTをつくってみたい」と次回に向けても意欲的。会場オーナーの中純宏さんとも「もっと会場をふやさなあかん！」と対話が進みます。お越し頂く方が、このまちを好きになることを大事にされている大和社中。おもてなし好きなこのチームが、次はどんな五條の品格を伝える取り組みをされるか、今からとても楽しみます。

空き家の情報が欲しい

大和社中にとって空き家の利活用は、新町通りの活性化のためにも非常に重要な課題です。

先述の日本食レストランやフランス料理店も、高いのまちを目指した町家利活用の一環です。短期間サブリースを行う大和・町家サブリースPROJECTでは、鉄道模型のジオラマ店がオープン。鉄道好きの方や観光で訪れた方などに好評を博し、テレビ朝日『人生の楽園』でも取り上げられました。たくさんの方の反響があり、現在も営業が継続されています。少しずつ利活用が進む中、困っていることもあります。「空き家の情報が手に入りにくいんです」と山本さん。オーナーの方が遠くに住んでいたりと、相続した方が誰なのか分からなかったりと、ユーザーにご提案しようにもできない物件もあり、行政と連携しながらの情報発信も検討されているそうです。空き家の情報をお持ちの方はぜひ大和社中へお知らせください。





土びと・風びと
エピソード

「おくさん、どうやるのー？」

名柄小学校では、全校生徒と一緒に針金アートのワークショップを実施。作家の奥中さんは、子供たちから「おくさん」と呼ばれ、すっかり仲良しに。

「えらいんでんなあ。」

地元のおじいちゃんは、まちが人で溢れる姿にびっくり！期間中は毎日がお祭り騒ぎで、多い日は一日で約5千人以上の方にお越し頂きました。

「地元のもんでも知らなかったですわ。笑」

田村薬品工業株式会社の薬草園、一言主神社が発祥とも言われている伝統芸能の鬼剣舞、九品寺で雅楽が教えてもらえることなど、地元の人も知らないものがたくさん発掘できました。



鬼剣舞の様子。HANARARTの事務局スタッフ小林が踊っています。

奈良・町家の芸術祭 HANARART 2012

御所ヤタ。柄



御所市にある名柄地区はかつて宿場町として栄えていました。葛城山を臨むこのまちには、一言だけ願いを叶えてくれるという「一言主神社」（地元ではいちごんさんと呼ぶそうです）をはじめ多くの歴史的遺産があります。造り酒屋や天然醸造醤油店、手作りとうふ店などこだわりの名店もあり、ハイキングの帰りに立ち寄られる方が賑わいます。

まちづくり団体が生まれた

当初このエリアにはまちづくり団体がなかったそうです。しかし、御所市役所の呼びかけから始まって、地域の文化を守る活動をする「吐田郷地区の文化を守る会」のベテランメンバーや、ふるさとへの愛着を再認識した若者など、名柄のために熱い想いを抱く有志がどんどん集結しました。そうして生まれた団体が、HANARART名柄実行委員会です。

「まちづくり団体が無い所から始めるのは大変だった」と振り返るのは、本業そっちのけでHANARARTに取り組んでくださった、竹田政義さん。「地元の方に多

名柄の小学生の10年後を想って

吐田郷地区の文化を守る会では、名柄の歴史を小学生たちに教える活動を実施。子供たちは帰ってから、家で両親に得意げに話をする。そして親はこの地区の歴史を子供から学ぶのです。「まちを誇りに想い、大切に人が増えることにつながればいいですね」と米田さんは言います。

その反面、若者の流出や、空き家、高齢者の一人暮らしが増加しているのも事実です。先日、近所の若い家族が、子供の学校のこと（少人数教育への不安）で、大阪への引っ越しを決めたという話があったそうです。

「5年後10年後、もっと先のことをこれから住民主体で考え、少しずつ変わっていくといい」「教育や福祉、交通、働ける場所など生活環境が整って、若い世代の人たちもまちの魅力を感じ、おじいちゃんおばあちゃん頑張る姿を見習いながら、皆が成長していけるまちにしていきたい」と名柄の未来を担うお二人はおっしゃいます。



HANARART名柄実行委員会のメンバー
米田 巧さん 竹田 政義さん



「普段の行事や活動は地区毎で行うことが多いのですが、それを超えて、地域で一つになることができました」と話す米田巧さん。米田さんは竹田さんの幼馴染で名柄生まれの名柄育ち。米田さんの言葉通り、幅広い人脈とアイデアをお持ちのお寺の住職や、小学校の校長先生、地元の人と一緒に活動してきた市役所の方など、本当にたくさんの方が協力してくれました。地元の人材発掘ができたこと、世代を超えたコミュニケーションが生まれたこと、地域の人の仲間意識が芽生えたことが今回のイベントのとても大きな成果となりました。

「参加してもらい『こあ』とともに『もあ』も盛り上げたかった。あくまでも主役は地元のおっちゃん、おばちゃんやと思う」と話す竹田さんは、一軒一軒訪ねて歩き、丁寧な対話を重ねられました。そこで生まれた地域の方々の出展したいという想いを大事にしたことで、名柄エリアでは全地域最多、50組以上の『もあ』参加者が出展。大好評だった鬼瓦コレクターの方や力強い書道作品を見せてくれた97歳のおばあちゃんなど、HANARARTがきっかけとなり、芸術に関心のある人が、地域にたくさんいることが分かったそうです。



HANARART名柄実行委員会

HANARARTへの参加呼びかけに誰も予想しなかった数の人々が名乗りをあげました。芸術に携わっている人の多さに驚かされました。改めて歴史と伝統に囲まれた環境と魅力あるふるさとに誇りを感じています。このHANARARTが大きくなると信じて・・・。





士びと・風びと エピソード

「あたらしい店発見！」

週末限定のイベント「郡山食べまある」も同時開催しました。地元に住む方にとっても新しいお店を知るきっかけになったと言って頂きました。

「お殿さんが来てはってなあ〜」

ご近所の方が建物にまつわる昔話をしてくださり、郡山の昔の酒瓶をキュレーターにプレゼントしてくれる場面もありました。

「即席ナイトビューイング！」

キュレーター、作家のみなさんが相談して、一夜限りのナイトビューイングを行いました。



(上段の中央) 小山 豊さん
(下段右から二人目) 伊藤 哲史さん
(下段左から二人目) 矢部 達大さん



(写真右) 杉山小児科医院の
杉山 満美子さん

若い担い手とその支え

郡山では、「金魚を通じて地域と自然を考える」をコンセプトに活動するケープール・プロジェクトの代表の小山豊さんや、大学生の伊藤哲史さん、ボーイスカウトの活動をしながら地域に溶け込み愛されているスーパージョブの矢部君など、若い人々のびとと活動している姿が印象的です。この若い力がどうつながるのかを期待しながら、あなたがたく見守る地域の住民や周囲の方々のサポートもこのまちの魅力になっています。

郡山城下町は豊臣秀吉の弟、秀長により百万石の城下町として整備され、箱本十三町という町の自治制度とともに発展してきました。紺屋町、大工町、魚町など当時の町名が今も残る市内には、江戸時代から盛んになった金魚の養殖池が点在し、独特な城下町の景色をご覧いただけます。



HANARART 郡山城下町エリア担当団体

K-Pool Project

金魚を通じて地域と自然を考えるプロジェクト。アートやデザインを生かしたまちづくりをしています。金魚ねぶたのワークショップ「金魚ねぶた大作戦！」や、「大金魚博覧会」、「一盞古本市」などを行っています。

HP : <http://www.k-pool.net>
Mail : info@k-pool.net



堺町の家の利活用提案をまとめている何左 昌範さん (右の写真左)、本多 健一さん (右の写真右)

「今回は、サブリースの数も増やしながら、商店街等にエリアを集中させてもいいのではないかと、小山さんはじめ、郡山チームは話しているそうです。

このようなHANARARTをきっかけとするまちへの関わりを、一つの大きな流れにするため、ゆるやかではあるけれど、しっかりとした組織が必要と感じているそうです。郡山でイベントを運営する母体や、町家・空き店舗の利活用を強力に進めていくために皆で動き始めています。

林和音さんの作品展示が地元の方にも好評だった浅井邸酒蔵と、大和・町家サブリースPROJECTで会場となった堺町の家は、大和郡山市建築士会の『歴史的建造物の保全・活用の促進による地域活性化事業』の利活用提案としてまとめられるなど、イベントをきっかけにお店づくりを相談される機会も増えたそうです。町家の利活用とともに空き店舗の解消に向けて取り組み始めています。「HANARARTでは、作品の展示はもちろん、街路灯に金魚ねぶたを飾ったり、老舗の和菓子屋と作家のコラボや食べ歩きイベントの企画を行いました。そのおかげで、各団体と協力関係を築きました」と会社のCSR活動で、郡山の地域協力を進める前田展広さんは話します。

「お掃除をしよう！」旧川本邸(『こあ』会場)の利活用に取り組み伊藤哲史さん。京都の大学に通いながら、郡山の課題に正面から向き合う、このまちのキーマンといえる存在です。キュレーターの山中俊広さんやアーティストの方々(通称ヤマナカ5)とのコンビネーションも抜群で、深夜にまでおよぶ作品の設営作業中でも、笑い声が絶えませんでした。「まちの担い手を増やし、育てないといけません」そう話す伊藤さんの目には常に30年、100年後の郡山の未来が映っています。

ゆるやかな一つの流れの組織を

県内でも有数の賑わいを見せた商店街も、今はシャッターが並んでいます。商店街の活性化に力を入れる、やなぎまち商店街協同組合は、商店街が賑やかだった当時の店舗数80店舗を目標に頑張っています。





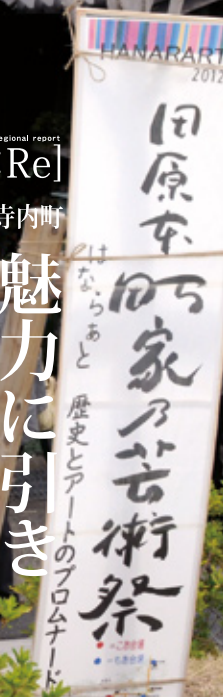
HANARART Regional report

[HA:Re]

田原本寺内町

魅力に引き込まれるまち

文・写真 田原正司さん
協力 田原本・まちをすきる会



辻川 正司さん
田原本を愛してやまない元新聞記者です。



奈良・町家の芸術祭 HANARART 2012



田原本寺内町

奈良盆地の中央、大和国中に位置する田原本町は、歴史ある陣屋町、寺内町として栄え、古代幹線道の下ッ道、中世の中街道が走っています。水陸交通の要衝であったことから「大和の大坂」と呼ばれるほど発展しました。鉄道が開通すると、映画館や飲食店など多くの店が立ち並び商家町となりました。様々な歴史や町衆文化が醸し出す独特の雰囲気、ぜひ訪れて体感してください。

「絶対やりたいんや！」

田原本寺内町エリアで中心となって取り組んだのは辻川正司さんです。2011年の開催時には、カメラマンとして全地域を回り、来場者と地域の方が交流する姿や、溢れんばかりの笑顔を見た時、辻川さんのやる気にかわりました。「発想のすばらしいイベントだと思った。11年のHANARARTではサテライト会場としての開催だったが、12年は田原本も必ずやると心に決めた」と振り返ります。



「今度展覧会に行こうと思います。」

現代アートにふれる機会が少なかった方が、作家と仲良くなり、今度個展に行きますと約束している姿がありました。HANARARTをきっかけに、少しずつ芸術の輪が広がっています。

「あっという間に時間がすぎちゃった！」

オーナーの方や作家が滞在してくれる会場が多かったこともあり、来場者の方は時間を忘れて、交流を楽しんでおられました。商業の町だけに、お話し好きな方が多いのでしょうか。

「このお家、入って見たかったの。」

まちの方も立派なお家に興味深々。中を見せてもらえる機会は少ないので、田原本の町家の価値を再認識するきっかけとなりました。



土びと・園びと
エピソード

HANARART 田原本寺内町エリア担当団体

田原本・まちをすきるになる会

商業地として発展した田原本。陣屋町、寺内町の文化が息づく歴史あるまちです。町家・町並みの保存に向けて、まちを深く深く愛する人たちが活動しています。



田原本を代表するいくつかの建物の中から、浄照寺と鍵岡本家を『こあ』の会場としました。辻川さんは鍵岡本家の鍵岡正忠さんに、「田原本を代表する商家建築なので、ぜひ町家の芸術祭をやりましょう。会場として使わせてください」と直談判。鍵岡本家は骨董屋「古今洞」を営んでおられますが、ここしばらくは雨戸を立てた日も多く、通りを寂しくしていました。会場に決まると、キュレーターや作家と一緒に鍵岡さんも、掃除や整理、商品陳列の大胆な模様替えに取り組み、かつての重厚な骨董屋の雰囲気に彩りを添えました。

控え目だった鍵岡さんも会期中は連日会場に立ち、訪れた方との交流を楽しんでおられました。田原本の歴史や骨董にまつわる話が面白く、長時間滞在する来場者の方も、「鍵岡さんが楽しそうに説明する姿は、会場を大いに盛り上げました」と、辻川さんも嬉しそうでした。

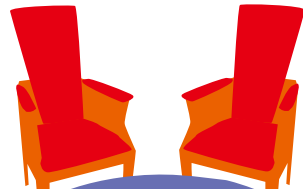


手を取り合ったまちづくりへ

かつては商店街も活気に満ち賑わいのあった田原本ですが、時代の流れと共に閉店する店や、空き家も増えています。「これからは、まちづくりのメンバーだけでなく、行政や住民、地元企業などを巻き込みながら、町再生への意識をまとめていくことが必要」と辻川さんは問題提起します。その言葉を実現するかのうちに期間中、老舗の味噌屋「嶋田味噌」と駅前のカフェ&ギャラリー「凧」に協力をお願いし、特製ランチをメニューに加えました。伝統の茜八味噌を使用したランチは、「はなみそランチ」と名付けられ、女性に大人気でした。

田原本の魅力に引き込まれ、転居37年の辻川さん。「歴史ある実家を『もあ』会場として、作品展を開いた田村一博さんは『石と漆』の造形作家の第一人者です。彼のような人が活躍する田原本は、まだまだ夢がある」と、更なる発展を確信しておられます。





士びと・風びと
エピソード



「暗い方がきれいに見えるわ。」

深瀬家ではオーナーの方からも積極的に展示方法の提案がありました。光を放つ作品だったので、できるだけ暗い空間を作ったり、夜19時頃までライトをつけてくださるなど、一緒に展示会を楽しんでもらうことができました。

「とにかく貴賓室に明かりをつけたい！」

昨年に引き続き会場となった、JR畷傍駅貴賓室。イベントなどで活用したいとNPO法人八木まちづくりネットワークの皆さんはおっしゃいます。今回のHANARARTでつながったキュレーター・作家と、面白い企画を考え中・・・

「僕達ここをお借りしたいです！」

大和・町家サプリーズ PROJECTでお借りしていた町家を、大学生のサークルが借りることに。晩成小学校が近いこの場所で、どんな活用が行われるかお楽しみに！



HANARART 八木札の辻エリア担当団体

NPO 法人八木まちづくりネットワーク

伝統文化や建築物などの歴史的資産を活かしつつ、住環境の改善を行い、「歴史を尊重する生き生きとしたまち」として活性化することを目指しています。

HP: <http://www.yagi-net.jp/> Mail: info@yagi-net.jp



(上写真左から) 平田元さん、西田隆彦さん(キュレーター)、河合正さん
キュレーターや作家さんとも短期間の間にとても仲良くなりました。



樺原市にある八木には、日本で最初の交差点と言われる「札の辻」があります。かつてこの場所は大阪から伊勢へ向かう人たちの宿場町として栄え、江戸・明治・大正それぞれの時代の町家と、その風格が今も残っています。何気ないまちかと思いきや、その魅力はあなだれません。町家での丁寧な営みが醸し出す空気感、聞こえてくる音、目に映る景色、気さくな人々、その全てが心地よいまちです。

八木札の辻



奈良・町家の芸術祭
HANARART 2012

現代アートとの距離が近くなった！

八木札の辻エリアを担当したのはNPO法人八木まちづくりネットワークです。伝統やしきたりを大切にしながら、新しいものを上手に取り入れ暮らしてきたまちの方々。HANARARTでも、現代アートのパワーとまちの持つ魅力を作家と一緒に、引き出してくれました。

理事長の平田元さんは「現代アートは今までと違った方法で、このまちの魅力を生み出してくれる。HANARART2年目の今年は、キュレーターや作家との距離が近くなりました！」と嬉しそうに話します。

距離を近づけることができたのは、キュレーターや作家が、八木の町家やまちが持つ、歴史・文化・魅力を感じとり、この場所ならではの展示会をしてくださったからだそうです。「いつもは場所の魅力を言葉で伝えてきました。今回はそれらを現代アートで表現して頂き、八木の魅力を五感で感じる事ができました。きっと来場者の皆様にも伝わったと思います。作品を見た時、気持ちを通じたような気がしました」と平田さん。

魅力ある現代アートに喚起されて、まちの人が自慢げに作品や会場の説明をしている姿がとても印象的でした。

「もっともっと多くの人に訪れて頂き、八木の魅力を味わってもらいたい。このイベントはそういう想いを叶えてくれそうだし」とNPOのメンバーは話します。

町家を残せるまちに

この地域では昨年大きな変化がありました。それは、札の辻にある旧東平田家(樺原市指定文化財)が旅館の面影を残した「八木札の辻交流館」としてオープンしたことです。ここが生まれ変わったことで、まちの景色がずいぶんと明るくなりました。住民の方々やNPOのメンバーが積極的に活動し、まちの景観を守る事例の一つとなったのです。

八木は重要伝統的建造物群保存地区ではないため、町家や景観に対する規制がなく、取り壊されてしまうケースも増えてきました。維持や改修等、町家・町並み保存には多くの課題があります。「今はまだ個々の保存意識と自助努力で歴史的な景観が残っています。この景観を誇りとし、力とし、町家・下ッ道・雰囲気・祭・アートなど、八木自慢の資産を継承していきたい」と未来へ向けての意欲も見せています。





HANARART 三輪エリア芸術団体
NPO 法人三輪座

恋のパワースポット大神神社のお膝元で、楽しく賑わうまちづくりを目指しています。三輪の中町にある「醸(かもす)」と、JR三輪駅のまん前にある「物産ショップ&おくつろぎカフェ三輪座」にお気軽にお越しください。
 HP: <http://miwaza.do.ai/> TEL: 0744-49-3818



(上段左から) 栄嶋 まゆみさん、山本 祐里さん、川端 規央さん
 (下段左から) 芹川 真弓さん、芹川 悦子さん



土ひと・圃ひと
 エピソード

开

「三輪の家が相乗効果になったね。」

大和・町家サブリース PROJECT を活用して、様々なアートがコラボレーションする展覧会、「三輪の家」が開催されました。HANARART と同時期に開催したことで、エリア内にアートを楽しむ「場」が1つ増えました。

「スタンプラリーのおかげでたくさん来てもらえました。」

1会場だけ離れた場所にあったので、三輪エリアオリジナルスタンプラリーを開催。まちを散策しながら、全ての会場を回って頂く仕掛けを作ることができました。多くの人に喜んで頂き、三輪座のメンバーもにっこり。

「こっちの部屋も使いますか？笑」

当初は土間ともう1部屋をお借りする予定でした。オーナーがHANARART を大変楽しみにしてくださっていたようで、会場下見に何うと、奥の部屋や立派な灯籠のあるお庭も貸して下さることに！町家利活用のきっかけづくりができました。



[HA:Re] 輪
 三輪 神秘的なまち

地元企業とコラボレーション

このエリアを担当したのはNPO法人三輪座のメンバー。「交流し、つながることをとても大事にしています」と理事長の川端規央さんは言います。昨年度三輪エリアで出展した作家の多くは、今年度も参加してくれました。

そして、今回は作家と企業とのコラボ企画に取り組んだ三輪。今西家で展示をした中岡庸子さんはなんと三輪素麺の「ぶし」を使った作品を発表。ご協力頂いた玉井製麵所は、今回のために、長さの違うぶしを提供してくださいました。「この作品は素麺できているんですよ」と来場者の方に伝えると、皆さんとても驚かれて、サポーターと来場者のコミュニケーションをさらに深めるきっかけとなりました。



桜井市にある三輪には、日本最古の神社・大神神社の門前町と伊勢街道の宿場町の両方の名残があります。素麺や酒造り発祥の地でもあり、三輪素麺は全国的にも有名。あの「赤い糸伝説」の言い伝えがある、恋のパワースポットでもあります。

奈良・町家の芸術祭 HANARART 2012



また、三輪で唯一の造り酒屋である今西酒造株式会社にもご協力を頂きました。この店の代表酒「三諸杉」のラベルに、桜井市在住の現代アート作家、中田桃子さんの作品「秋を待つ」が使われました。中田さんは、昨年度の様子を見て、ぜひ地元の展覧会に参加したいと出展を希望してくれた作家です。この商品はお土産として大変好評でした。

HANARARTをはじめ、町家のライトアップや雑貨市、落語会など、様々な方法でまちの魅力発信を行ってきた三輪座。「続ける事で、一人また一人とまちを想って、協力してくれる人が増えました」と川端さん。厚芝ひろみさんも新しい協力者の1人です。「1回目のHANARARTへの出展をきっかけに地元の三輪によく帰ってくるようになりました」お母さんの勧めもあり、Uターンを決めたそうです。「実家・地元の空気を吸いながら、毎日仕事に通えるのがいい」と話す厚芝さん。まちづくりの会議に出席したり、地元のお店にグッズを提供したり、積極的に活動されています。

ブライダルと建築に取り組む意味

三輪のまちでは子供の人数が減少傾向にあり、次世代を担う若手の住民が少ないという現状があります。三輪座が目指すのは、次世代も楽しく住み続けられるまちです。

これからのを担う若手世代のためにも展開しているブライダル事業には、「大神神社に見守られる中、三輪で出会い、三輪で結ばれ、三輪で暮らす」という恋人の聖地ならではのストーリーが込められているそうです。また、次世代も住み続けられるまちにするため、吉野材を使用した新築町家の建設や、古い町家の改修など、住まいに関わる取り組みも実施しています。これらの活動が地域貢献につながり、まちが元気になるという強い想いを持って日々活動を行っています。

「まちづくりとは人のつながり。それぞれの何かしたいをとりあえずやってみる。個々がつながり、皆で大きな輪になっていく。そうすれば、まちも自分自身も元気になっていく」川端さんはじめ、三輪座のメンバーはそう信じています。



HANARART 2012 を終えて

HANARART 2012年の成果



① 記憶

② 交流

③ 変化

「HANARARTこゝろ」は町家や
まちの記憶をふまえた展示となった！

各会場でサイトスペシフィックな展示が行われ、
地域と現代アートの魅力を伝えるものとなった。

世代・ジャンルを超えた交流が生まれた！

来場者と地域住民をはじめ、キュレーターや作家、企業、学校など
多方面にわたつての新たな「つながり」が生まれた。

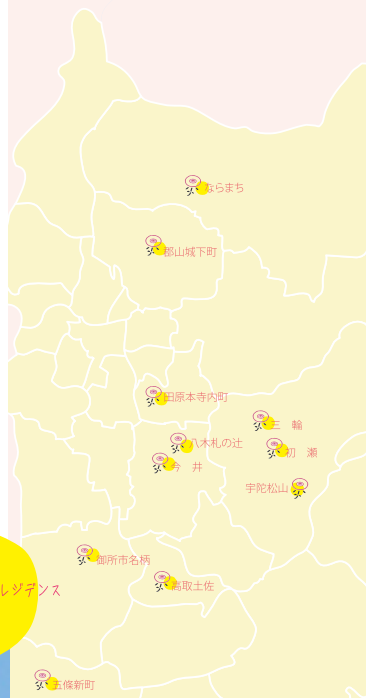
「HANARARTもあ」では地元作家を多く発掘する
きっかけとなり、住民の方々と一緒にイベントを実施できた。

オーナーの方の意識に変化が起った！

最初は貸すことに躊躇されていたオーナーから、
HANARARTがきっかけとなり、所有している物件を
活用してほしいとの声を頂く機会が増えている。

まちづくりとしての HANARART

地域のまちづくりに新たな活気が欲しい、HANARARTは一人の女性の強い
想いから始まり、2回目となる今回は延べ
約3200人もの方々に協力を頂くこと
ができました。実行委員会では、会期終了
後すぐに、今後につけての話し合いを行っ
ています。積極的にワークショップやア
ーティストインレジデンスを取り入れ、更
に多くの人を巻き込みたい、地域の課題の
解決につながるよう具体的な目標を設定し
てイベントを開催していきたいなど、具
体的な意見が次々に飛び出しています。



今までのまちづくりは、地域に熱い想い
を抱く方々で取り組んできました。さらに
地域の活性化を進めるには、一人でもたく
さんの方の協力が重要です。まちづくり
としてのHANARARTの役割とは、もつ
と多くの人が関わる仕組みをつくること
ではないか、新たな価値観や想像力を生む現
代アートは、地域の人材を育む大きな力に
なる、私たちはそのように考えています。

「アートって楽しい」「私も何かしたい」
「私たちの町ってすばらしい」など多種多
様な想いが、このHANARARTで溢れ、
地域の未来を創造していけるよう、これか
らも多くの方々とHANARARTを作っ
ていきたいと思っています。

想いを表現する、行動する、まちを想う、
どんな形の参加でも結構です。
みなさんご参加をお待ちしています。

2013
ワークショップ

大和のまちづくりの 将来像(ビジョン)

今までのまちづくりは、個々の地域がそ
の特性や魅力を活かし、独自に取り組ん
できました。しかし、自分たちが悩んできた
地域の課題やテーマが、他の地域と共有さ
れるものだという事に気付く、ここ数年
はまちづくりを担う者たちが、集まって交
流する機会を増やしてきました。共に悩み、
学び、知恵を出し合い、協働して取り組む
ことで、さらに強い信頼とつながりを生む
ことができました。HANARARTもそ
のひとつです。多くの地域が、横のネット
ワークをつくり、難題に挑戦する。そして、
同じ事業やイベントに取り組むプロセスや
交流の中に、希有なまちづくりの姿がある
といえます。個々の地域を尊重し、活かす
ネットワークが、HANARARTであり、
次の大和のまちづくりの将来像(ビジョン)
をつくりたいと思っています。

ご支援頂いた地域の皆さま、関係各位にあ
らためて御礼申し上げます。これか
らのHANARARTへ熱いご声援を賜り
ますよう、よろしくお願ひ致します。

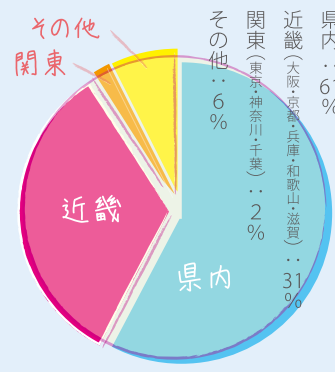
まちの 未来へ

奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会
実行委員長 上田琢也

楽しい

子供たちの生活の中にもっとアートが身近
な存在になってほしい、それが私のHAN
ARARTです。いつか子供たちが大き
くなり、育ったまちを離れることになつても
いつでも戻ってこれるような活気あるま
ちづくりのお手伝いが出来ればと願ってい
ます。
(藤原日和子)

HANARART事務局から
HANARARTってどんなイベント？
と尋ねたら、きつと様々な答えが返って
くるでしょう。それだけ沢山の方が関わって
くださり出来上がったイベントです。
そうだ、地元の子どもたちも聞いてみよ
うかな。
(小林征子)



奈良・町家の芸術祭
HANARART 2012
会期：10月27日～11月11日
五條新町、御所市名柄、郡山城下町、
田原本寺内町、八木札の辻、三輪
運営に関わった人達：約2,321人
来場した人達：約58,000人
参加したキュレーター：11人
参加したアーティスト：約130組
会場：71カ所

H.A.R.e 編集後記

奈良に来ると、先人達が守り、受け継いで
きた空気を感ずる事ができます。そして
「不変」と「革新」の中で、笑顔を絶やさず丁
寧に暮らす今の大和の人々。彼らの想いと
笑顔を届けるため、H.A.R.eを作りまし
た。一人でも多くの方に想いが伝わり、笑顔
が紡がれることを願っています。ご協力頂
きました皆さま、本当にありがとうございます。
(松本珠貴)

写真手前から、HANARART事務局
小林征子・松本珠貴・藤原日和子



ご協賛・ご寄付頂いた皆さま (順不同)



■展示会場オーナーさま：中純宏、池口小太郎、畠中光炎、池口喜昭、杉山武造、浅井吉蔵、佐々木智、鍵岡正忠、JR 西日本旅客鉄道(株) 王寺鉄道部、深瀬正仁、中野聖子、池田幸重郎、もあ会場オーナーの皆さま、他 ■ご後援頂いた皆さま：大和郡山市、橿原市、桜井市、五條市、御所市、田原本町、朝日新聞奈良総局、産経新聞奈良支局、奈良新聞社、日本経済新聞奈良支局、毎日新聞奈良支局、読売新聞奈良支局 ■ご協力頂いた企業、学校の皆さま：近畿日本鉄道(株)、畿央大学 三井田ゼミの皆さま、(株) 経済計量研究所、特定非営利活動法人奈良 NPO センター、奈良県立大学、奈良交通(株)、奈良女子大学 増井研究室の皆さま・山崎研究室の皆さま、奈良大学 社会調査学科の皆さま ■キュレーター&アーティスト 141 組の皆さま ■サポーターまちやお&まちよ／地域サポーター延べ 515 名の皆さま ■町家ガール：津嘉山裕美、溝口敦子 他 12 名の皆さま ■審査員：増井正哉(奈良女子大学 生活環境学部 住環境学科 教授) 三瀬夏之介(画家 東北芸術工科大学 准教授) ■ゲストコメンター：小吹隆文(美術ライター) ■広報資料製作・印刷：共栄印刷株式会社、飯村有加 ■撮影：長谷川朋也、おおくぼおさむ、松本豊、他 ■映像製作：今村知也 ■図録デザインアドバイザー：三原賢治(amanojack design) ■WEB デザイン：小山豊(K-Pool Project) ■主催：奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会 上田琢也(実行委員長)、山本陽一(副実行委員長)、野村ヨシノリ(アートコーディネーター・図録デザイン)、藤野正文、平田元、宮本孝二郎、川端規央、小山豊、門脇秀樹、辻川正司、下村京、齋藤聡、竹田政義、前田展広、伊藤凜、谷脇栗太、中村貴子、森田敦子、小林征子、藤原日和子、松本珠貴 ■共催：奈良県 ■オブザーバー 田中久延、辻本長彦、甲賀晶子、堀恵未香(奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課)、東田中英之(五條市都市整備部都市計画課)、清水隆平、田中照二(御所市企画開発部) (順不同) その他、各地域で運営にご協力いただいた皆さま、広報にご協力いただいた皆さま、HANARARTに関わってくださいました全ての方々に心よりお礼申し上げます。



まちとともに、まちへの関わり方ガイド [ハレ]
HANARART Regional report

<http://hanarart.main.jp/>

発行：奈良県
奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会
平成 25 年 3 月 10 日 発行